

にぎわい

—日本海にぎわい・交流海道推進協議会通信—

★今年のG.W.は是非、福岡へ

毎年、ゴールデンウィークに200万人超のお客で賑わう、この時期日本で最も集客の多い祭り「博多どんたく港祭り」が、5/3～5/4にかけて開催されます。この祭りでG.W.中の博多は祭り一色となり、かなりの熱気に包まれます。

この祭りの起こりは、「博多松囃子」が源流であり約820年前まで遡り、粋な博多ツ子が無礼講な挨拶回りとして発展・定着させたものであります。

今年は、来年に控えている「博多港開港100周年」、「福岡市制施行110周年」と「福岡商工会議所創立120周年」を記念してまた、芸所博多にふさわしい「博多座」開業を間近に控え、景気高揚への願いも込めて『前祝いタイ！「みなと100周年」・「博多座」開業』をテーマに行われ、例年になり盛り上がり期待されます。

連休中どこに行くかまだ決まっていない方、是非、九州博多へ足を運び、愉快的気分を楽しんで下さい。

とき
催し物

平成10年5月3日(日)～5月4日(月)

式典：ベイサイドプレイス博多埠頭～

博多松囃子：天神等、福岡市街地一円

花火大会：博多埠頭より打ち上げ

博多湾内クルージング：『ちくぜん』『ゼリーフィッシュ』『マリエラ』

その他：各種行事有り

その他、詳細につきましては福岡市の方へお問い合わせ下さい。

PORT OF HAKATA
BAYSIDE ADDRESS
1998
ゴールデンウィーク
特集号

前祝いタイ！
開港100年。
平成11年博多港は開港100周年を迎えます。

街は「どんたく、港まつり」

【大特集】
どんたく
ベイサイドクルーズ
参加者募集！

第37回福岡市民の祭り 博多どんたく「港まつり'98」NEWS

海の中道までのクルージング。ちょっとした船旅気分が出かけよう!

海の中道までのクルージング。ちょっとした船旅気分が出かけよう!

船名	乗客定員	料金	備考
ちくぜん	100名	1,000円	博多埠頭～海の中道
ゼリーフィッシュ	100名	1,000円	博多埠頭～海の中道
マリエラ	100名	1,000円	博多埠頭～海の中道

※料金には消費税は含まれていません。また、乗船料金は別途お支払いください。

海の中道はおもしろワンダーランド!

花と楽しいイベント「海の中道海浜公園」
キャラクターショー
2000年イベント
2000ウォッチング
開館10周年を迎える「マリンワールド海の中道」
THE FISHES OF AMERICA

博多港は平成11年に開港100周年を迎えます。

100th ANNIVERSARY
100
1999年博多港開港100年

～レポート～

日本海交流の歴史は、明治時代まで日本内外にわたる船舶航行の中心を担っていました。

奈良・飛鳥時代には遣唐使など大陸との交流が盛んで日本の仏教文化等の大陸から進んだ文化が根付くため大きな役割を果たし、2回にわたる元寇襲来に対し、台風により日本を守護してくれた点から、日本は日本海や太平洋を濠として守られた城と言えます。

また明治時代初期までは、北前船が大量輸送手段として、日本海側からの年貢米や豊富な海の幸は関門海峡を經由し、瀬戸内海、関東を結ぶ海上交通の大動脈（北前航路）を形成し、隆盛をほこっていました。

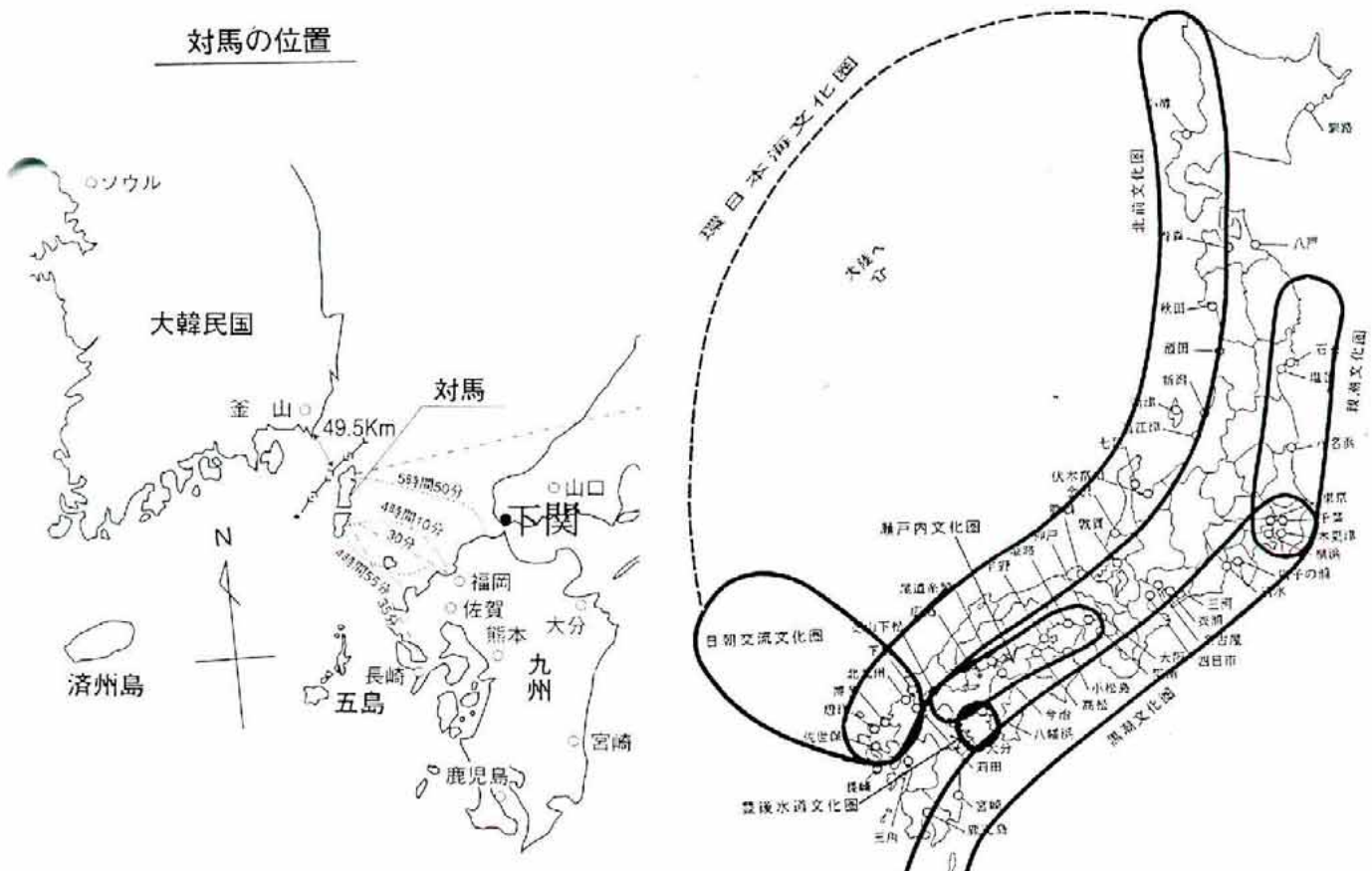
しかし、こういった海上から来る恩恵も、明治時代中期以降、全国的に敷設された鉄道により、内陸地を經由して太平洋側への輸送が可能となったことから、次第に衰退の一途を辿っていきました。

今度は九州・山口域に着眼しますと、代表的と言えますのは、鎖国期に入り唯一、外国貿易との窓口を担った長崎の出島においては、ここから全国的に舶来品を陸上・海上輸送を経て医術や文化、物の伝搬がなされ、鎖国が布かれた中でも朝鮮国とは正式な国交を結び、年間500隻を越す日本の貿易船が対馬を經由して朝鮮に出入りしていました。西九州域では有田焼や伊万里焼などの名器が有り、桃山時代の朝鮮出兵時に大陸から来た陶工が始祖とされ、現在においてもこれら焼き物は高い評価を得ております。

観光面においては、韓国釜山と博多埠頭との間に就航しているジェットホイールや下関との関釜フェリーなどで、九州にあるスペースワールドやハウステンボスなどアミューズメントパークへ、多くの観光客がみえられ、歴史的な構造物や碑などもたくさん残っているため一つの観光資源となっています。

これらから、九州地方は昔から大陸文化との窓口として大きな役割を担っており、現在は、その過去からの財産を保存しつつ、今後ともアジアの玄関口として、発展・友好的な交流を継承していくことが私たちの使命であると言えます。

対馬の位置



～ニュース～

★地域間連携への序章(油除去作業におけるボランティア活動より)

最近、全国的に貨物船や漁船等による衝突事故等の海難事故が多発し、当事務局管内の関門航路においても沈没、座礁などの問題が多く存在しています。なかでも、最も懸案であるのが昨年11月11日の深夜から、あたかも海峡の主として航路の中心に沈没している中国船籍の「楚海(チューハイ)」は、12月18日にはパナマ船籍の貨物船「フェア・アイリス」が接触する2次災害も発生する事態も起こり、海峡の沿岸に重油が漂着するなど海域環境への影響や漁業への被害、長期に及ぶ行政の対応も相当なものです。

沈没してから、そろそろ半年を迎えますが、どうやら最近になり引揚費用とサルベージ会社も決まり、先が見えてきた状況とはいえ、引き揚げが完了し、安全に海峡を航行出来るようになるには、まだまだ時間がかかるようです。

こういった、緊迫した状態が続いている中、またも今年の2月8日にはベトナム船籍の貨物船が錨泊中に強風に流されて、下関市垢田沖合約200mに座礁してしまいました。その影響で付近の海岸に流出した燃料油のB重油が漂着し、近くの住宅街では数日間、異臭が立ちこめ翌日以降、多くの行政関係者や市民が祝日(2/11)を返上して、漂着油の除去作業を行いました。この作業中においては各自治体からの支援物資が届けられ、寒風のなか非常に役に立っていました(3/29日離礁)。

このような災害の中、昨年よりナホトカ号の油流出や阪神大震災時など、地域また全国的なボランティアのネットワークの大きさと活躍を見ることができ、この機会に地域連携の和を大きいものにしていくこともにぎわいにつながっていくことと思います。



座礁船「ハターン」



油除去作業(ボランティア活動)

～編集後記～

今回、趣向を変えてレポートと言う形で、当局(第四港湾建設局)なりに、何かこの「にぎわい」へのへつながっていく方向を述べさせていただきました。今までのような地域での活動報告に加えて、全域全会員から新しい情報、例えば会員の地方行事予定とかあったりしたら、「いつ、どこそこに行ってみようか」という気になるのでは、先の情報を掲載することにより、先ず人の交流が図られ地域間の交流が形成されていくものと思っております。会員の皆様、もっと「にぎわい」紙面を有効に活用していきましょう。

日本海にぎわい・交流海道推進協議会事務局

第四港湾建設局 海域整備課 TEL 0832-24-4129

FAX 0832-28-1310